

■2006年(7月~12月)活動報告■

第28回ハンドインハンド

今年のハンドインハンドは「守りたい、子どもの命…子どもの未来」をテーマに3日間にわたり県内7箇所で行われました。

- ◆ご多用のなか駆けつけてくださったボランティアのみなさま募金に温かい思いをお寄せいただいた多くのみなさま快く会場をご提供くださった企業のみなさま本当にありがとうございました

12月24日(土)

- ◆クリスマス・イヴのお買い物客で賑わうジャスコ佐賀大和店で、今年最後のハンドインハンドを実施しました。
- ◆両手に大きな荷物を持ち足をとめて募金箱にお金を入れながら「ご苦労様です。」と言ってくれるお客様もおられて、ボランティアの皆さんは元気をいただきました。



佐賀市ジャスコ佐賀大和会場

12月23日(土)

- ◆鹿島市ピオ、モリナガでのハンドインハンドには、ボーイスカウト鹿島第一団の皆さんや鹿島ライオンズクラブの皆さんがボランティアとして協力してくださいました。
- ◆会場近くのお花屋さんも「ユニセフ募金にどうぞ」と、硬貨がたくさん入った重い貯金箱を持ってきてくださいました。



鹿島市 モリナガ会場

←上峰サティ会場

12月17日(日)

バニーズ三日月店会場→

- ◆初雪を観測する寒い一日でしたが、佐賀玉屋前・上峰サティ・イオンスーパーセンター佐賀店・バニーズ三日月店の4箇所で「守りたい、子どもの命…子どもの未来」というテーマで募金活動をしました。



- ◆各会場近くの方、福岡市や嬉野市、柳川市などから駆けつけてくださったボランティアさんは総勢76名にもなりました。

イオンスーパーセンター佐賀店会場→



←佐賀玉屋会場



募金贈呈式

2006年12月22日(金) 柳川市立大和小学校



- ◆柳川市立大和小学校(桜井靖子校長 児童数125人)では、例年ユニセフ募金に取り組んでおられます。今年も児童会で、12月11日から12月20日までユニセフ募金活動に取り組むことが決まりました。
- ◆毎朝、5年生・6年生のみなさん全員が交代で、登校するお友だちに募金協力を呼びかけました。募金協力してくれたお友達には手作りの「ユニセフ募金ありがとうカード」を渡して感謝の気持ちを伝えました。今年は、「ありがとうカード」のデザインを全校の皆さんに呼びかけて、かわいいカードがたくさんできました。
- ◆終業式で6年生の運営委員長さんから活動の報告があり、大和小の子どもたちの温かい思いがいっぱい詰まった重い募金箱を佐賀県支部に託されました。

募金贈呈式

12月20日(木) 佐賀県立鳥栖商業高等学校(鳥栖市)

- ◆佐賀県立鳥栖商業高等学校(西田智浩校長 生徒数600人)では10月19日(木)に『鳥栖商フェスティバル ～開け！文化の宝石箱～』を開催されました。
- ◆フェスティバルでは、生徒会や各部、PTAでバザーや模擬店を開かれ、その益金34,484円をユニセフ募金として寄贈されました。
- ◆鳥栖市はJ2サガン鳥栖のホームタウンで、サッカーにも関心が高いところです。ユニセフの「子どもとエイズ」世界キャンペーンに共鳴し支援をしているFCバルセロナを紹介して、エイズと闘う子どもたちの話をしました。

募金贈呈式



生徒さんが手にしておられるのは硬貨の入った袋です。なんと全部で180キロ程にもなりました

12月10日(日) 事務所にて

- ◆佐賀市立昭栄中学校の文化発表会のテーマは「かがやけ！生命のff(フォルテッシモ)～663ピースの仲間とともに～」でした。それを受けて2年生の学年テーマは「情熱大陸」、さらに2年2組のテーマは「友情」でした。
- ◆2年2組(39人)の皆さんは「世界の友だちへの友情を」ということで、ユニセフについて調べ、2週間にわたって募金活動をしました。11月4日(土)の文化発表会では、オードリー・ヘップバーンユニセフ親善大使やユニセフのロゴマーク、世界地図などを1円玉アートで表現して保護者の皆さまや地域の方々にユニセフ募金を呼びかけました。
- ◆本日は、先生と代表の方がたくさんの抱えきれないくらい重い募金を持っておいでくださいました。

生徒の皆さんの声&一円玉アート



- ◆募金活動をするよと決まるとき「そんなに集まらないだろう」と思っていたけれど予想以上にたくさんのお金が集まった。1人1人のお金は少ないけど、たくさんの協力があればこんなにいっぱいのお金になるんだと嬉しかった。
- ◆地域の人たちのおかげで集まった募金だから、これで世界の困っている子どもたちが助かったら嬉しいです。



◆街頭に立って1日目に「エイズと闘っている子どもたちのために」と募金を呼びかけていたら、HIVポジティブの方と会って話を聞き、「自分の言う言葉に責任を持たないといけな。簡単なことではないんだ。」と強く思いました



一円玉アートの基本になる一円玉の格子

◆ユニセフの存在は知っていたけどあまり身近には感じていなかったが、実際に街頭に立って募金を呼びかけると、宅急便のドライバーさんやトラックの運転手さんもお金を入れてくれて、多くの人たちがユニセフに協力しているんだなあと思いました。ユニセフが身近なものになった。

ユニセフパネル展



「ふれあい人権フェスタ2006」会場にて
12月9日(土) 佐賀市文化会館

パネルでユニセフの活動を紹介し、「子どもの権利条約カード」で子どもの権利の40の条文を紹介しました。

ユニセフ出前授業

11月30日(木) 三潞郡大木町立大溝小学校6年生(59名)

- ◆6年生の皆さんは、『「何かができる 自分たちにできるボランティア」～命と水:ユニセフサポーターになろう～』をテーマに、第1回目のユニセフ出前授業「世界の子どもたちは、今」の学習を発展させて、「水」の問題から見た世界の子どもたちの様子について更に学習をしました。
- ◆水クイズ、ビデオ「水を求めて」、ネパールの水がめを使っての水運び体験、ORS(経口補水塩)の話、スペシャルドリンク作り体験などをしました。



学習を終えて

- ◆水をこぼさないようにがんばって運びました。水がめを運ぶのは思っていたよりも大変だったです。
- ◆ビデオを見て片道が6時間もかかる道のりを何kgもある水をもって歩くのは大変だろうなあと思いました。実際に水がめを持ってみるととても重かったです。水運びのために学校にも行けないということがよく分かりました。

◆地球には水はいっぱいあるけど、飲み水として使える淡水はたったの0.8%しかないということが分かってびっくりしました。

募金贈呈式

11月29日(水) みやき町立中原小学校にて

募金贈呈式

11月24日(金) 事務所にて

- ◆佐賀市立城東中学校JRC委員会の皆さんは、11月5日の文化発表会でユニセフ募金活動に取り組みました。
- ◆手作りの「ユニセフ募金に協力しましょう」と書かれたのぼりや募金箱を持って展示会場をまわり、保護者の皆さんや先生方、生徒さんたちに協力を呼びかけ、温かいご支援を受けることができました。
- ◆本日は定期試験の合間をぬって、代表の方が募金を届けてくださいました。



ユニセフ出前授業

11月24日(金) 佐賀市立諸富北小学校6年生
6年1組「もっと知ろう！ユニセフのこと・子どもたちのこと」
6年2組「私たちの食料と世界とのつながりについて考えよう」



- ◆6年生の皆さんは総合的な学習の時間に「支え合ういのち」をテーマに学習をすすめています。
- ◆1組のみなさんは10月の出前授業の後を受けて、グループごとに「ユニセフ」「子どもの兵士」「児童労働」「学校」「地雷」「栄養と病気」などのテーマを決めて調べさらに学習を深めました。
- ◆2組のみなさんは「私たちの食料と世界とのつながりについて考えよう」というテーマで学習をしました。ユニセフのパネル・食料分配ゲーム・日本の食料自給率などを通して、国や地域によって「人々が食べられる状態」には、大きな偏りがあることに気付きました。



学習を終えて

- ◆私たちは先進工業国に住んでいて豊かだと思っていたけど、本当は色々な国の人たちに支えられているんだなあということが分かりました。次は私たちが何かしてあげなければならないと思いました。

募金贈呈式

11月20日(木) 事務所にて



- ◆成瀬中学校では色々な募金活動に取り組んでいますが、5月の生徒会総会で1年生から提案された「ユニセフ募金に取り組もう」を可決しました。それを受けて自治厚生部の皆さんを中心に11月の学芸発表会会場でユニセフ支援のためのバザーを開きました。本日はバザーの売上金をユニセフ募金として代表の方が事務所まで届けてくださいました。

自治厚生部長さん(3年生)のお話

- ◆バザーに出す色々なものがたくさん集まったことに対して保護者の方に感謝したい。また、たくさん売れて募金することができるのも、保護者の方やいろんな方のおかげで、感謝の気持ちでいっぱいです。
- ◆自分たち自身もバザーを通して得るものがいっぱいあったので、これからもこのようなバザーが続いていって、地球の未来を担う子どもたちのために貢献していけたらいいと思います。

ユニセフグッズの頒布

11月19日(日) パプテスト連盟佐賀キリスト教会にて

事務所訪問

11月14日(火)

- ◆みやき町立三根中学校3年の生徒さんが、総合的な学習「共生～国際理解：ユニセフの活動とボランティア～」について調べるため事務所を訪問されました。
- ◆マラリアを運ぶ蚊から家族を守るための殺虫剤処理をほどこした蚊帳や、地雷のレプリカ、ビタミンAのカプセルなどを見て「初めて知った！」と驚きの連続でした。



生徒の声

- ◆私たちがふつうに暮らして、ふつうに勉強したり、ふつうに遊んだりしていることが、世界にはそういうことができない子どもたちがたくさんいることが分かりました。今日、帰る家があるということはとても幸せなことだと思いました。
- ◆私たちが簡単に使っている10円や20円で、世界の人たちのためにたくさんのお金が使われていることが分かりました。これからは募金活動などに積極的に参加したいです。

ユニセフパネル展&グッズの頒布

11月12日(土) 佐賀市メートプラザ(成瀬中学校バザー会場)にて



- ◆第10回成瀬中学校学芸発表会会場において、自治厚生部の皆さんはユニセフ協力のためのバザーを開きました。
- ◆保護者の皆さんや生徒さん、先生方にパネルを見ていただいたり、グッズの半額がユニセフの現地での活動資金になることを知っていただき、多くの協力を得ることができました。ユニセフ担当の生徒さんたちはひっきりなしのお客様の対応に大忙しでした。

ユニセフパネル展・グッズの頒布・ミニバザー

11月11日(土)「本庄まつり」会場(佐賀市立本庄小学校)にて

あいにくの雨天のため、ポン菓子や綿菓子を手にした元気な子どもたちでいっぱいの室内で、パネル展、グッズの頒布、ミニバザーを行いました。

ユニセフ出前授業

11月8日(月) 三潁郡大木町立大溝小学校6年(59名)

- ◆6年生の皆さんは、総合的な学習の時間に、世界に目を向けて「何かができる…自分たちにできるボランティア」をテーマに学習をしています。
- ◆今回の活動名は「世界の子もたちは、今」です。人口クイズ・食料分配ゲーム・世界の12歳・ビデオ「ユニセフと世界の友だち」などで、自分と同世代の世界の子どもの様子について学習しました。



ユニセフのつどい

11月4日(土) 佐賀市アバンセ

- ◆◆ オープニング・ダンス 「We support unicef by dancing !!」
長崎でユニセフの支援活動をしている若者のボランティアグループDEPARTURE。
今回はその中のダンスチームTommy'sのみなさんがダンスパフォーマンスを披露してくださいました。



- ◆◆ フィリピンレポート 「ボランティアで訪れたフィリピンを見て考えたこと」
講師：吉田 篤哉 先生(九州大学歯学部歯科麻酔科 講師)

身体的精神的障害を持つ方の歯科治療に携われ、カトリック医師会が20年前から行っているメディカルミッションに参加。ボランティアとしてフィリピンの人々の歯科治療活動をしておられます。
「つどい」では、そこで見聞きし、感じられたこととお話していただきました。
先生のフィリピンの人々・子どもたちへの慈愛に満ち溢れるお話の中で、「何かと比べて自分の幸せを自覚するのはいけない事のような気がしていたが、『幸せと思わないと彼らに失礼』』という言葉がとても印象に残りました。

- ◆◆ 交流会「もっと知ろう！ユニセフのこと・世界のこと」
 - ◆「ユニセフ・ビンゴ」
 - ◆プチ・ミニ・チョコット・ワールド ツアー
パレスチナ・エジプト・インドネシア・ネパール・中国と、5つの国や地域を巡るワールドツアー。



佐賀県支部評議員、関谷先生
のご挨拶で「ユニセフのつどい」
は始まりました



総司会



エジプトのサイエドさん



インドネシアのボガさん



パレスチナのサミさん

留学生の皆さんは、スライドショーや、写真、本、玩具などを持参され、母国の文化・習慣・お国自慢・言葉などを紹介されました。参加された皆さんは各国の方との交流を楽しまれていました。



ネパールのドウルガさんご夫妻



中国の董さん

(次ページに続く)

参加者の感想から

- ◆ 吉田先生の「健康は特権ではなく、権利である。」と言われた言葉が心に残った。全ての人たちが健康に生きたいと思う気持ちを大切にしなければならぬ。フィリピンだけではなく、日本も、他の国々も。ユニセフはそのためにも頑張っていると思う。
- ◆ 「障害を持つ人」についての先生のお考えに共感し、フィリピンで歯科治療をボランティアで毎年されている先生の生き方に感銘を受けた。そして、ペインティングされた石ころをフィリピンの子もたちとの絆として大切に思われていることに先生の優しさを強く感じた。心洗われる時間でした。
- ◆ オープニングのトミーズのダンス、生でフレッシュな踊りで久し振りに心ウキウキになった。吉田先生のボランティア活動は頭の下がる思いがする。真のフィリピンを世界に知らせられたらと思った。
- ◆ 佐賀に来て市民の人たちと話す機会が少ないので、今日は楽しかった。話し合うことはいいことです。(留学生)

「ユニセフのつどい」を終えて

日ごろからさまざまな形でユニセフをご支援いただいている皆さまに、感謝の気持ちを込めて開催しました「ユニセフのつどい」ですが、参加された皆さまからは「参加してよかった。」「遊びながら学ぶことがあってよかった。」「すごく楽しかった。ぜひまた参加したい。」「これからも私たちがなりにユニセフに協力できるように活動していきたい。」などの声をいただきました。ありがとうございました。

ユニセフ パネル展・グッズの頒布・募金活動

11月3日(金) 小城市ふるさとまつり会場(ドゥイング三日月・三日月ふれあい公園)にて

- ◆ さわやかな秋晴れの下、小城市ふるさとまつり、同時開催・佐賀広域圏郷土ふれあいまつり・小城市郷土芸能祭でにぎわう会場で、多くの皆様にユニセフの活動を紹介し、ユニセフ支援へのご協力をよびかけました。
- ◆ 三日月中学校生徒会のみなさん・若竹ボランティアのみなさん・それに飛び入りで応援してくださったお友達・先生方を合わせて総勢28名のみなさんが、ユニセフ募金活動に取り組んでくださいました。「ご苦労さん。よく頑張っていますね。うちの孫と同じ学年ね。」と声をかけて募金協力をしてくださる方もいらっしゃいました。



中学生の感想

初めての募金活動で、声をかけるタイミングやチラシを渡すタイミングが難しかった。でも、だんだん慣れて、お金を入れてもらったときは嬉しくて楽しくて、またユニセフ募金をしてみたい。

インターンシップ(就業体験学習)

10月24日(火)～25日(水) 事務所にて

体験学習をした生徒さん(佐賀女子高等学校2年生)のお話

- ◆難民の子どもたちの様子をテレビで見て、その時「ユニセフ」を知った。ユニセフについてもっと知りたいと思ってインターネットで調べていたら、佐賀にもユニセフの事務所があることを知り、ぜひそこで体験学習をしたいと思った。
- ◆二日間過ごしてみて、ユニセフの事務所ってけっこう大変だなあと思った。いろんな学校の先生たちからたくさん電話がきたのでびっくりした。
- ◆ユニセフを調べるなかで、子どもの兵士やストリートチルドレンなど様々なことを学ぶことができた。これからは、二日間で学んだことを周りの人々に伝えていきたいと思っている。



募金贈呈式

10月19日(木) 事務所にて



- ◆佐賀清和中学校ユニセフ実行委員会のみなさんは、9月6日の文化祭で「PEACE OF WORLD」のテーマのもとにユニセフの支援活動に取り組みました。本日は協力いただいた募金を代表の方が事務所まで届けてくださいました。
- ◆ユニセフのビデオやユニセフ手帳、自作資料等で全校の皆さんや保護者の方々にユニセフへの理解と協力をお願いしました。その中でも特に「地雷」と「識字」に焦点をあて、みんなが分かりやすいようにクイズ形式で展示をするなどの工夫をしました。

実行委員のお話

- ◆チラシを配ったり協力をお願いしたりしていると「ああ、そうなんだ。」と、話を聞いてくれた人がいて嬉しかった。
- ◆募金箱を持って呼びかけていたら終わりごろに近づくごとにだんだん大きな声が出るようになって、「募金を入れてくれた人たちはいい人だなあ」と感じた。
- ◆頭で考えることも大事だけど、実際に行動してみて初めて分かったことがあったので、行動の大切さを学んだ。

ユニセフ出前授業

10月16日(月) 佐賀市立諸富北小学校6年1組(26名)



- ◆6年1組の皆さんは総合的な学習の時間に「支え合うのち」をテーマに学習をすすめています。
- ◆ユニセフ出前授業では、子どもたちの意識調査をして「私たちの食料と世界とのつながりについて考えよう」というテーマを設定しました。
- ◆子どもたちは、ユニセフの写真・ハンガーマップ・食料分配ゲームなどを通して、国や地域によって「人々が食べられる状態」には、大きな偏りがあることに気付きました。
- ◆また、食料自給率から私たちの「食」は諸外国に大きく依存し支えられていることを知り、他国の人々の「食」や「暮らし」についても考えました。



ユニセフ パネル展グッズの頒布

10月15日(日) 佐賀市三瀬町「三瀬ざっといかんばいマラソン」ゴール会場にて

ユニセフ パネル展グッズの頒布

10月15日(日) 鳥栖市の「健康福祉まつり」会場 コープさかのブースにて

ユニセフ グッズの頒布

10月14日(土)、15日(日)

エイズ・ストップ・キャンペーン『シエナ・プラス佐賀公演2006』会場にて
(有明ふれあい郷自有館・武雄文化会館)



武雄市文化会館



白石町
有明ふれあい郷自有館

- ◆「NPO法人ふるさと佐賀文化交流応援団」主催のエイズ・ストップ・キャンペーン「シエナ・プラス佐賀公演2006」会場において、ユニセフが取り組んでいる「子どもたちのためにエイズと闘おう」世界キャンペーンの紹介とユニセフグッズの頒布をしました。
- ◆会場にはプラスを愛する中学生・高校生、保護者の皆さまがおいでになり、プラバート・ナンプー寺院のホスピスの写真やユニセフのパネルを熱心に見ておられました。
- ◆たくさん子どもたちがエイズで命を落としていることを知って「子どもがエイズ？考えられないねえ」という中学生の声も聞こえました。



ユニセフ パネル展

10月7日(土)、8日(日) 佐賀大学医学部「むつごろう祭」にて

- ◆佐賀大学医学部の学園祭「むつごろう祭」が佐賀市鍋島の医学部キャンパスで行われました。
- ◆「むつごろう祭:学術」の皆さんは、「子どもとエイズ」世界キャンペーンでのユニセフの4つの事業(①母子感染の予防②子どものHIV感染者およびエイズ患者の治療③若者の新たな感染者の予防④孤児をはじめ、エイズにより困難な状況にある子どもの保護サポート)の紹介やキャンペーングッズリストバンドの頒布、パネル展、ビデオ上映、募金活動などに取り組みられました。
- ◆多くの大学関係者や市民の皆様に、子どもたちのためにエイズと闘うユニセフを知っていただくことができました。



さが国際交流・協力フェスタ2006

9月24日(日)アバンセ(佐賀市どん3の森)

- ◆「さが国際交流・協力フェスタ2006」において、ユニセフすごろく・パネル展・ユニセフグッズの頒布をしました。
- ◆子どもたちや若い人たちがユニセフすごろくを体験され、ユニセフの活動の一端に触れていただきました。

ユニセフすごろく

子どもが生まれてから大人になるまで、すごろくを通してユニセフの活動を体験しました。



大きなサイコロを転がそうさあ！何が出るかな？

奥：発育測定コーナー
手前：ORSコーナー

パネル展



ユニセフグッズの頒布



ユニセフ出前授業

9月14日(木) 佐賀郡東与賀町東与賀中学校3年生(95人)

- ◆東与賀中学校3年生の皆さんは、総合的学習の時間 ～Search for Life～「国際理解」の学習で、各自のテーマを持ち探求活動をしています。
- ◆「開発途上国・南北問題に関するテーマ」のAグループの学習と、「子どもにかかわるテーマ」のCグループの学習を佐賀県支部が担当しました。
- ◆Aグループでは、人口問題・食糧問題・水資源・その他の問題を様々な視点からみて学習しました。
- ◆Cグループでは、乳幼児の死亡・児童労働・HIV/エイズ・ストリートチルドレンなど様々な困難な状況下にある子どもたちの現状を学習しました。特にモンゴルにおける「マンホールチルドレン」の様子を伝え、同じ地球に共に生きるものとして自分とのかかわりを考えました。



学習を終えて

- ◆子どもをとりまく様々な問題は、子どもだけの問題ではなく、全て大人がかかわっているという事が分かった。
- ◆貧富の差がなぜ生まれるのか、子どもたちの心の内をもっと知りたい。今まで見ようとしなかったところにも目をむけていこうと思う。
- ◆先進工業国が必要以上に食料や水や資源を使っていると思った。自分だけよければ他人のことはかまわないということでもいいのかと改めて思った。自分の持っている悩みがちっぽけなものに思えた。何をするにも感謝の気持ちを忘れないようにしようと思った。
- ◆同じアジアに暮らす私たちが、アジアの人口増加やエイズ、児童労働、ストリートチルドレンなどの問題を「知らなかった」ということが分かった。もっと詳しく調べてみたいと思う。



先生のためのユニセフ学習会

8月18日(金) 佐賀市アバンセ

ワークショップ「一杯のコーヒーから」～ 体験してみよう!!「アロマ村のコーヒー農園」～

後 援 : 佐賀県教育委員会、佐賀市教育委員会、佐賀県高等学校長協会、
佐賀県小中学校校長会



ファシリテーター
松本亜樹さん
地球共育の会 ふくおか 副代表



アロマ村の人々は、昔ながらの農法でトウモロコシや雑穀などを栽培し、家族や仲間と助け合って生活していました。そこへエスプレッソ社の社員がやって来てコーヒー栽培の話をもちかけましたのですが・・・さて・・・



年	10月	11月	12月	1月	2月
100	+20	-9	-9	-20	100

エスプレッソ社
7220円

コーヒー栽培を始めて4年が経ちました。4年の間には天候不順や取れ高の変動あるいは他国の生産事情がからみ、コーヒー豆の価格も変動しました。村の人たちの暮らしはどうなったでしょう・・・。



村の人たちは少しでも現金収入を増やして子どもを学校へ行かせることができるようにコーヒーをどのくらい栽培するか一生懸命に考えています。

◆台風10号もものは、長崎市、飯塚市、大川市など佐賀県外から来られた方も含めて39名の皆さんは熱心にそして楽しく学び合いました。

参加者の声

- ◆初めはみんな仲良く助け合って平和な村だったのに、エスプレッソ社の人 came ことで、欲が出たり疑い深くなって人を信じられなくなりました。村の平和がこわされていったと思った。
- ◆自分が実際生産者になり、利益や損などを自分のこととして体験する事ができハラハラしたり、喜んだりしてとても面白く、また、とらえやすかった。とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ◆『見えないつながり』は『見ようとしないと見えてこない』という、松本さんの話を心にとめておきたい。
- ◆こんな研修を受けたのは初めてだったので新鮮でよかったです。いつもとは違う点から世界を見つめることができました。

グッズ頒布&パネル展

8月1日(火) 佐賀市アバンセ
佐賀県生協連合会主催 「ピースアクション2006」～平和のつどい2006～

- ◆佐賀県内の7つの生協では「平和とよりよき生活のために」をスローガンとして、親子で取り組める平和活動を行っておられます。
- ◆～平和のつどい2006～の会場で「紛争と子どもの権利」のパネル展とユニセフグッズの頒布をしました。



第5回夏休み親子交流会inプラザ

7月30日(日) iスクウェアビル (JR佐賀駅南口)
「こどももおとなも遊び・遊ぶ・遊べ」～ユニセフすごろくで遊ぼう!～

- ◆夏休み最初の日曜日、700人を越える親子連れがプラザを訪れて、各団体の様々な催し物を楽しめました。
- ◆ユニセフのブースでは、すごろく遊びを通してユニセフの活動について体験していただきました。すごろくゲームは小さな子どもから大人まで、次から次へと参加者の列が途切れることはありませんでした。

大きなさいころを転がして
「さあ何が出るかな？」



スタート



まずは受付
白衣を着て保健師さんに
扮した中高生ボランティア
から母子手帳をもらいます

大きくなっているね。
好評の身長体重測定コーナー



ゴール



水運び体験コーナー



予防接種をしたらスタンプを押します

参加者の声

- ◆さいころが大きくて楽しかった。はかってもらって(身長を)うれしかった。(5さい)
- ◆水はこびはまじきつかった。(4年生)
- ◆出生登録もされない子どもがいるのですか？信じられません。(母親)
- ◆もっと時間があつたらゆっくり勉強できるのですが。(母親)
- ◆はんこやシールをもらって楽しかった。(1年生)

子ども記者取材

7月24日(月) 事務所にて



- ◆「子ども佐賀新聞」記者(5年生)が事務所を訪れ、ユニセフの活動や佐賀県支部の活動にかかわることを取材されました。
- ◆ジャワ島地震緊急募金活動に参加したことがきっかけでユニセフに関心を持ち、もっと詳しく調べたいと取材先に当事務所を選ばれました。
- ◆佐賀新聞社では、小学5・6年生と中学1・2年生を中心とした子ども記者が取材した記事をもとに「子ども佐賀新聞特集号」を8月31日付けで発行されます。子ども記者は取材活動を通して、書く楽しさを体験し、併せてふるさと佐賀や社会事象に対する関心を深め、社会性を養っています。

募金活動

7月15日(金) 事務所にて

- ◆長崎市内の若者たちのボランティア団体『DEPARTURE』の皆さんは、ユニセフ支援のためにイベント会場で募金活動をされました。3回のイベントで協力いただいた募金を、佐賀県支部までお届けくださいました。
- ◆事務所では「ユニセフと地球のともだち」のビデオを見て、更に次の活動への意義を確認されました。ユニセフに関心を持って行動される若い人たちのパワーを心強く思いました。



募金活動

7月2日(日) 大川市文化センター

- ◆キッズサポートたんぽぽによる「大川信金地域振興基金」助成事業「七夕・ジャズコンサート」会場において、パネル展、ジャワ島地震緊急募金活動をしました。
- ◆七夕飾りが飾られた会場では、親子連れが星への願いを短冊に書かれ、ジャズコーラスを楽しめました。
- ◆会場の一角にユニセフコーナーを設け、パネルでユニセフの活動を知っていただき、ジャワ島地震の緊急募金にご協力いただきました。

